

東淀川区東淡路1丁目～菅原2丁目

凡 例	
■■■■■	当該路線
====	事業中区間
————	完成区間
=====	未整備区間
=====	未拡幅区間

対象事業 位置図



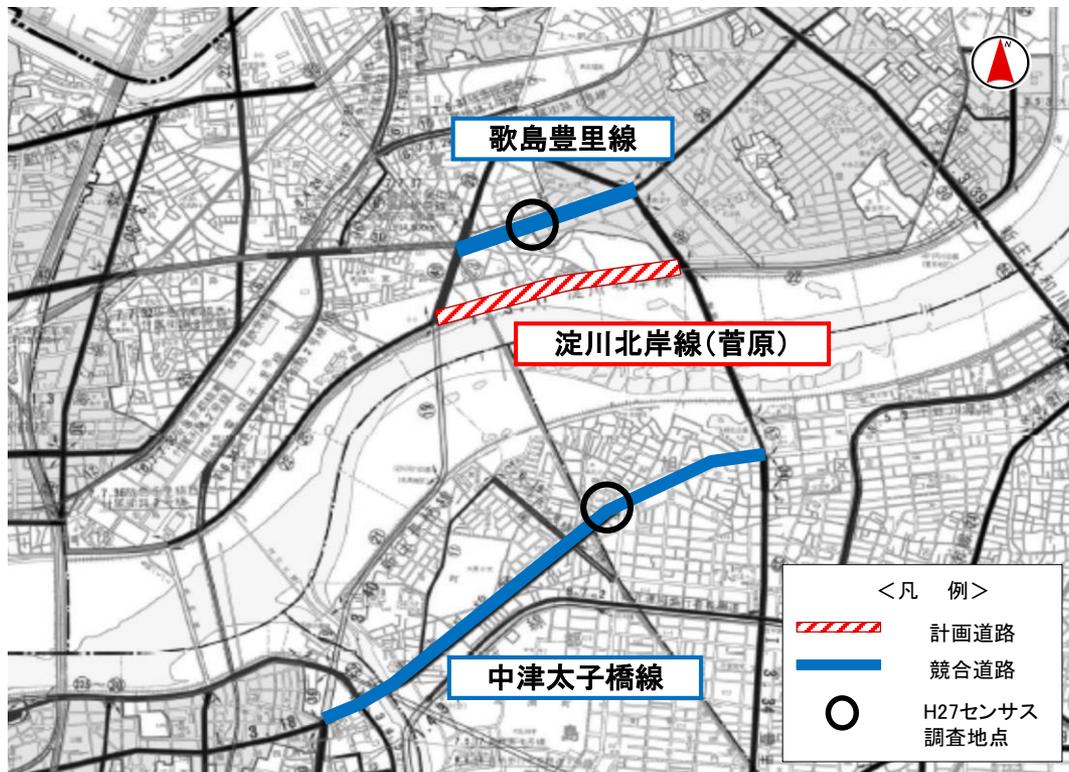
便益 (単位：億円)

走行時間短縮	18.1
走行経費減少	0.8
交通事故減少	0.6
歩行者快適性向上	1.8
合計(初年度便益)	21.3
便益総額の 現在価値	275.1

費用 (単位：億円)

事業費 (単純合計)	146.9
維持管理費 (単純合計)	1.8
投資総額の 現在価値	144.0

社会費用便益比B/C	1.91
------------	------



図一 澁川北岸線(菅原)

注) 小数第二位を四捨五入しているため、合計値が合致しない場合がある。

①

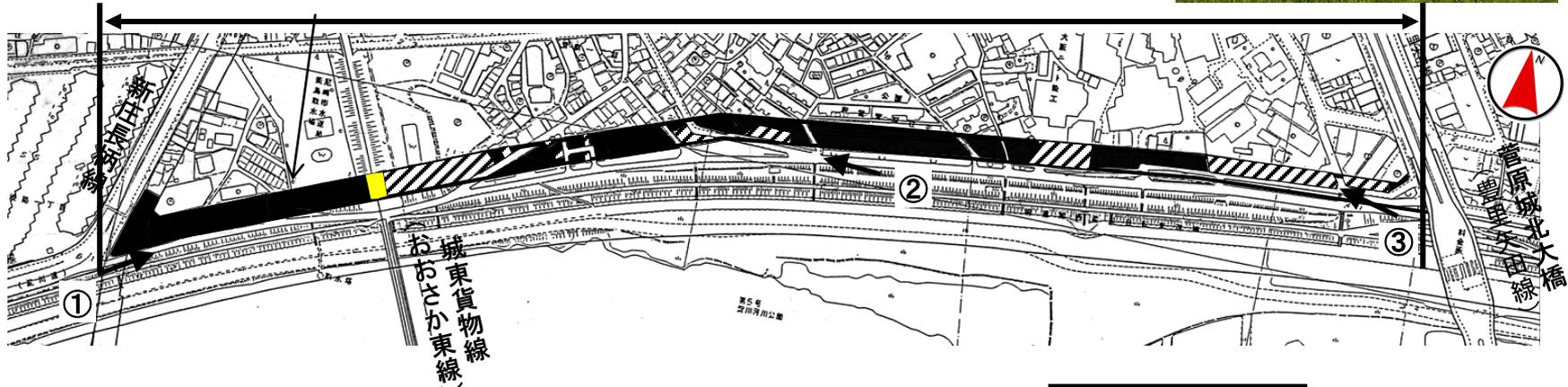
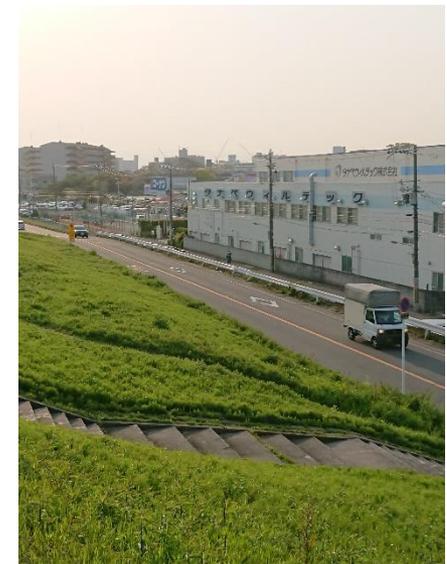


②



事業中箇所 L=1,190m W= 22m

③



計画断面図



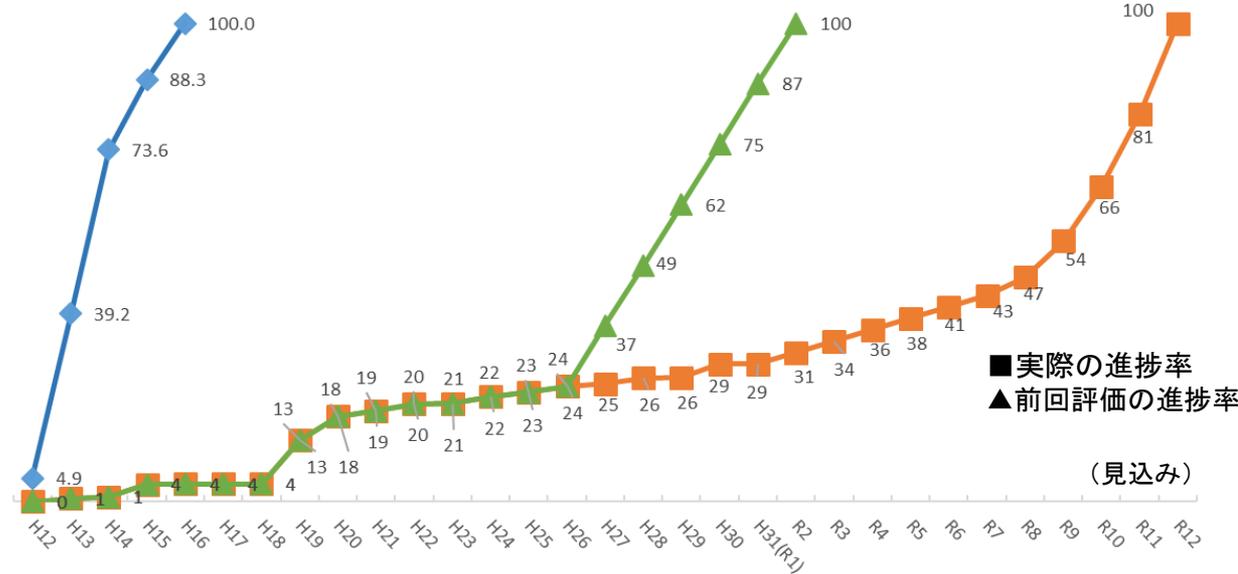
凡 例	
	用地取得済箇所
	整備済箇所
	残用地取得物件
	施工中箇所

用地取得率:68%(面積ベース)
工事進捗率:0.8%(面積ベース)

事業費ベース進捗率:29%

進捗率の推移(単位:%)

事業採択時の
想定進捗率



残事業の内容

- ・用地取得18件(6,694㎡)
- ・道路工事(延長1,190m、面積26,180㎡)
- ・残事業費約105億円

今後のスケジュール(見込み)

- ・令和12年度 事業完了予定

事業が遅延した原因とその状況

- ・財政状況が厳しく、限定的な事業実施にとどめざるを得ないため、当初計画に比べ進捗が遅れていた。
- ・用地取得において、売買に難色を示されていることなどで、大規模物件を含む用地買収が難航し、事業が長期化していた。

対応と解消の目途及びその根拠

- ・当面は予算の範囲内で用地取得を進め、優先度の高い他の路線の整備の収束に伴い、残る用地取得と道路整備を進め、令和12年度での事業完了をめざす。
- ・用地買収については、個別課題の解消に向け精力的に取り組むとともに、事業完了に向け計画的な取得を行う。